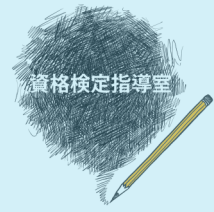


# 資格検定 NEWS



岡山県立倉敷工業高等学校 資格検定指導室

## 「座右の銘」

「座右の銘」はふつう、持っているものなのか？ ある種のコンプレックスとともに気になっていた疑問を尋ねてみると、半数強の人が座右の銘があると答え、含蓄ある言葉の数々に触れることができました。

人物紹介の記事を書くための取材で、「座右の銘は？」なんて気軽に聞いてきた。どの人も答えを返してくれた。でも、もし自分が聞かれたら？

どきっとしたのは、5年ほど前に就職試験の面接を担当したとき。模擬取材という形式で学生が3人の面接担当者の1人にインタビューする。「どんな思いで仕事をしていますか」「趣味は」「座右の銘は」といった質問によどみなく答えていく同僚。「私だったら答えられない」。横で見ていると内心、焦った。自分が空っぽな気がした。以来、大人だったら座右の銘の一つも持っているものなのだろうか、と気になっていた。

習慣化コンサルタントの古川武士さんは「自分の中に軸が定まり、考え方や行動がコントロールできるようになります」と効果を話す。

静岡の主婦（56）が挙げたのは、「人と比べない」。「丸ごとの自分でいいんだと思うようになって生きることが楽になった」。ほかにも、「悪い方向にしか物事を考えられなかったとき、友達が『未来は明るい』と信じるんだよ、と言ってくれた。信じることによって悪いことを考える隙がなくなった」と、言葉との出会いを紹介してくれた。

「神様はドアを閉めるとき、いつも窓をひとつ開けておいてくださる」という言葉に巡りあった福岡の自営業女性（44）は、それを心の支えにしてきたという。座右の銘をまとめた本で知った「怒りは無謀を以（もつ）て始まり、後悔に終わる」を掲げた山梨の会社員男性（61）は「私は短気で怒りっぽい性格で、慎重になって行動した人の判断を、行動が遅いと感じて怒ることがあった。そんな時に会った」。自分と似た人を見かけると、さりげなく伝えているそうだ。富山の男性（76）の「仕事で選択に迷ったときは前向きの方を選ぶ」は、すぐに使えそうだ。

兵庫の男性（52）が挙げた「なんの、これしき！！」との出会いにも引き込まれた。阪神大震災の翌年、被害が大きかった兵庫県西宮市にある西宮青年会議所で、当時の理事長が掲げた言葉だそうだ。男性は自身の建設会社の社是にした。「台風で現場がむちゃくちゃになったり、不況になったり。そんなとき、被災地で同世代の仲間たちが気持ちを奮い立たせて頑張っていたことを思い出してきました」

言葉を教えてくれた人の存在の大きさを感ぜさせるエピソードも多かった。

座右の銘に出会ったきっかけとして2番目に多かったのが「教師」。「幼稚園のとき『光の子らしく歩きなさい』と書かれた鉛筆を頂いた。つらいことの多い生活でしたが、良心に恥じることはせずに生きてきた」（北海道、49歳女性）、「悩んでいたとき、中学の英語の先生が『YES I CAN. これだよ』と言ってくれ、以来、心の支えに」（京都、58歳男性）。

悩みながら生きてきて巡りあった言葉だからこそ、支えになるのだろう。

座右の銘はないし、欲しくもないと答えた東京の男性（61）は「会社で管理職になると座右の銘を社内報に書かされる決まりがあった。出ているのは『一所懸命』など、ありふれたものばかり。何だか無理やり作っているようでとても嫌な感じがしたから、廃止されてホッとした」という。並んでいたのは確かに、無理やり見つけた言葉だったのかもしれない。

私に必要なのは「座右の銘探し」ではなく、まず、懸命に生きることではないかと感じた。（山田佳奈）

【出典】朝日新聞デジタル （be between 読者をつくる）座右の銘はありますか？

2015年3月28日